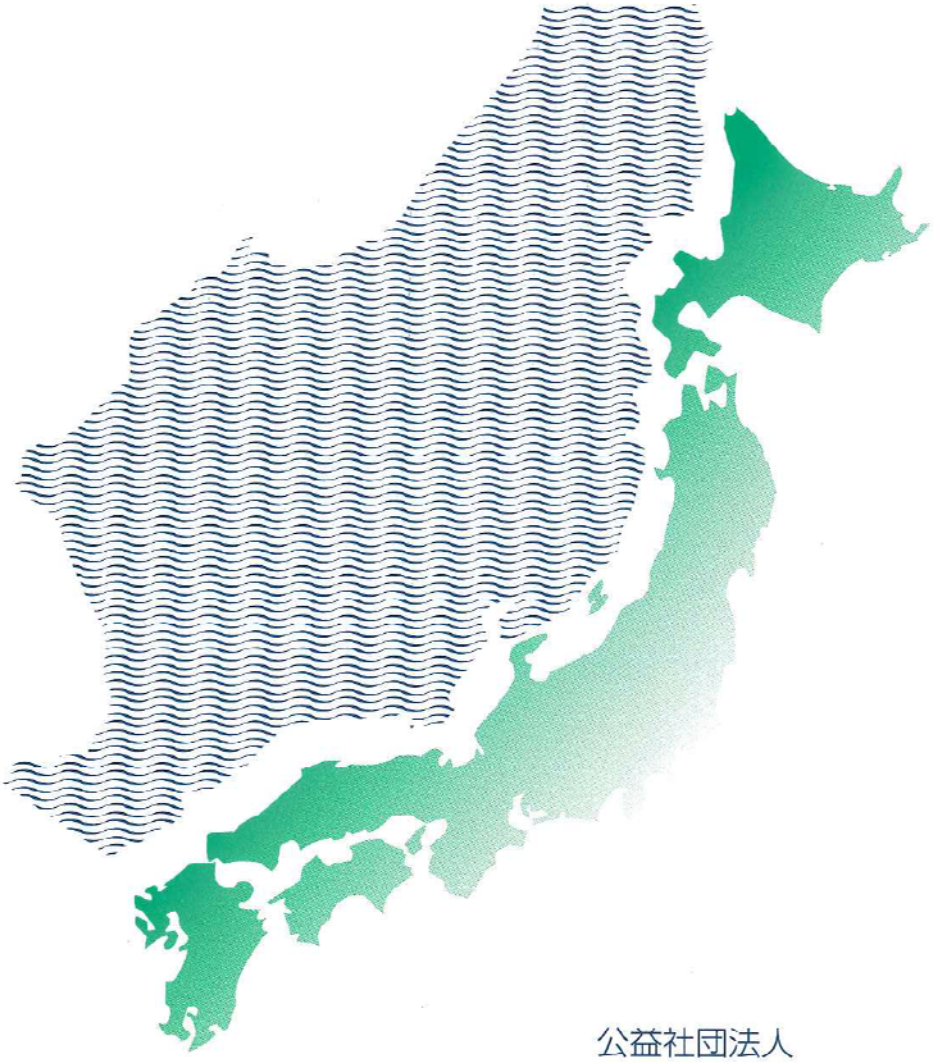
会報

第117号



公益社団法人
日本海海難防止協会

目　　次

Ⅰ　事 業 報 告 1
1　新潟ＬＮＧバースにおける新型式ＬＮＧ運搬船の航行安全調査..... 1
2　金沢港大型客船入出港に係る航行安全調査 2
2-1　作業部会 2
2-2　第２回委員会 2
3　敦賀港大型客船入出港に係る航行安全調査 3
3-1　第２回作業部会..... 3
3-2　第３回委員会 4
4　岩船沖洋上風力発電事業に係る航行安全調査 5
4-1　第１回委員会 5
4-2　ビジュアル操船実験..... 5
5　舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査 6
5-1　作業部会 6
5-2　第３回委員会 7
6　伏木富山港(伏木地区)大型客船夜間出港に係る航行安全調査..... 8
6-1　ビジュアル操船実験..... 8
6-2　作業部会 8
6-3　委員会 9
7　新潟港(東港区)大型客船入出港に係る航行安全調査 10
8　日本海北部海域における小型船舶の安全対策に関する調査研究(秋田県・山形県地区) 11
Ⅱ　会 務 報 告 12
Ⅱ－１　会議の開催..... 12
Ⅱ－２　業務日誌抄..... 14
Ⅱ－３　業務予定..... 15
Ⅲ　寄 稿 欄 16
饒速日尊という神様 16
Ⅳ　連 絡 事 項 22
☆ 会員名簿の変更 22

Ⅰ　事 業 報 告

１　新潟ＬＮＧバースにおける新型式ＬＮＧ運搬船の航行安全調査

委員会の構成　（順不同・敬称略）

「委　員」

（委員長）日當　博喜　海上保安大学校　名誉教授

遠藤　　真　富山高等専門学校　教授

久古　弘幸　一般社団法人日本船長協会　副会長

西村　陽造　新潟水先区水先人会　会長

信田　拓志　新潟港船舶代理店会　事務局
（株式会社リンコーコーポレーション東港支社　船舶業務部長）

伊藤　則彦　日本海曳船株式会社　常務取締役

「関係官公庁」

第九管区海上保安本部　交通部

新潟海上保安部

北陸地方整備局　新潟港湾・空港整備事務所

新潟地方気象台

新潟県　新潟地域振興局　新潟港湾事務所

「オブザーバー」

東北電力株式会社

日本海エル・エヌ・ジー株式会社

第２回委員会

(1)　開 催 日：平成 28 年１月 14 日(木)

(2)　場　　所：新潟市　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟

(3)　議　　題：

①　第１回委員会の質疑・対応について

②　ビジュアル操船実験結果について

③　係留の安全性の検討について

④　航行安全対策等について

２　金沢港大型客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成　（順不同・敬称略）

「委　員」
（委員長代行）遠藤　　真　富山高等専門学校　教授
久古　弘幸　一般社団法人日本船長協会　副会長
木下　　博　七尾水先区水先人会　会長
東川　昌樹　株式会社金沢港運　海務部　次長
「関係官公庁」
第九管区海上保安本部　交通部
金沢海上保安部
北陸地方整備局　金沢港湾・空港整備事務所
金沢地方気象台

2-1　作業部会

(1)　開 催 日：平成 28 年１月 19 日(火)
(2)　場　　所：金沢市　石川県庁　会議室
(3)　議　　題：
①　第１回委員会の質疑・対応について
②　ビジュアル操船実験結果について
③　係留の安全性の検討について
④　航行安全対策案について

2-2　第２回委員会

(1)　開 催 日：平成 28 年２月４日(木)
(2)　場　　所：金沢市　金沢都ホテル
(3)　議　　題：
①　第１回委員会の質疑・対応について
②　ビジュアル操船実験結果について
③　係留の安全性の検討について
④　航行安全対策について
⑤　報告書構成案について

３　敦賀港大型客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成　（順不同・敬称略）

「委　員」

（委員長）寺本　定美　海上保安大学校　名誉教授
遠藤　　真　富山高等専門学校　教授
久古　弘幸　一般社団法人日本船長協会　副会長
三反崎紀夫　福井県水先人会　敦賀港水先人
藤田　紀雄　敦賀海陸運輸株式会社　常務取締役
小堀八寿雄　日動海運株式会社　代表取締役
三上　立人　敦賀セメント運輸株式会社　代表取締役社長
高瀬　　貢　敦賀ターミナル株式会社　代表取締役社長
寺田　光徳　新日本海フェリー株式会社敦賀支店　支店長
塚本　　明　北陸電力株式会社敦賀火力発電所　所長
中村　尊子　近海郵船株式会社敦賀事務所　所長
濵上　貞和　敦賀市漁業協同組合　代表理事組合長
山本　時夫　福井県小型船交通安全対策協議会　事務局長

「関係官公庁」

第八管区海上保安本部　交通部
敦賀海上保安部
中部運輸局　福井運輸支局（敦賀庁舎）
北陸地方整備局　敦賀港湾事務所
福井地方気象台

3-1　第２回作業部会

(1)　開 催 日：平成 28 年１月 20 日(水)
(2)　場　　所：福井市　福井県庁　会議室
(3)　議　　題：
①　第２回委員会の質疑・対応について
②　ビジュアル操船実験結果について
③　係留の安全性の検討について
④　航行安全対策案について

3-2　第３回委員会

(1)　開 催 日：平成 28 年２月 19 日(金)

(2)　場　　所：福井市　ユアーズホテルフクイ

(3)　議　　題：

①　第２回委員会の質疑・対応について

②　ビジュアル操船実験結果について

③　係留の安全性の検討について

④　航行安全対策について

⑤　報告書構成案について

4　岩船沖洋上風力発電事業に係る航行安全調査

委員会の構成　（順不同・敬称略）

「委　員」
（委員長）南　　清和　東京海洋大学　教授
髙橋　　勝　海上保安大学校　名誉教授
久古　弘幸　一般社団法人日本船長協会　副会長
小坂　徳夫　新潟水先区水先人会　副会長
竹内　一男　岩船港利用促進協議会　会長
神丸　正広　粟島汽船株式会社　船長
小田　政市　新潟漁業協同組合　代表理事組合長
「関係官公庁」
第九管区海上保安本部　交通部
新潟海上保安部
北陸信越運輸局　海事部
北陸地方整備局　港湾空港部
新潟地方気象台
新潟県　交通政策局
村上市

4-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：平成 28 年１月 25 日(月)
(2)　場　　所：新潟市　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟
(3)　議　　題：
①　洋上風力発電事業計画について
②　調査・検討の計画について
③　岩船港の現況について
④　航行環境について
⑤　通航路における操船検討について
（ビジュアル操船実験方案）

4-2　ビジュアル操船実験

(1)　開 催 日：平成 28 年２月 22 日(月)～23 日(火)
(2)　場　　所：東京都　株式会社ＭＯＬマリンシミュレータ室

５　舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成　（順不同・敬称略）

「委　員」

（委員長）寺本　定美　海上保安大学校　名誉教授
日當　博喜　海上保安大学校　名誉教授
久古　弘幸　一般社団法人日本船長協会　副会長
上野　善洸　舞鶴水先区水先人会　会長
河地　俊行　〃　副会長
篠原　忠臣　飯野港運株式会社　専務取締役
久保　勝　舞鶴倉庫株式会社　取締役舞鶴事業部長
小東　雅幸　日本通運株式会社　舞鶴海運支店　支店長
原　正朗　ジャパンマリンユナイテッド株式会社舞鶴事業所　ドックマスター
近江　喜彦　新日本海フェリー株式会社　舞鶴支店　支店長
滝本　惠介　関西電力株式会社　舞鶴発電所　計画課長
鍵本　房男　舞鶴曳船株式会社　代表取締役
西川順之輔　京都府漁業協同組合　代表理事組合長
山田　悦子　京都府小型船安全協会　事務局長

「関係官公庁」

第八管区海上保安本部　交通部
舞鶴海上保安部
近畿地方整備局　舞鶴港湾事務所
京都地方気象台
海上自衛隊　舞鶴総監部
舞鶴市産業振興部　みなと振興・国際交流課

5-1　作業部会

(1)　開 催 日：平成 28 年２月９日(火)
(2)　場　　所：舞鶴市　舞鶴グランドホテル
(3)　議　　題：
①　第２回委員会の質疑・対応について
②　ビジュアル操船実験結果について
③　航行安全対策案について

5-2　第３回委員会

(1)　開 催 日：平成 28 年２月 15 日(月)

(2)　場　　所：舞鶴市　舞鶴グランドホテル

(3)　議　　題：

①　第２回委員会の質疑・対応について

②　ビジュアル操船実験結果について

③　航行安全対策について

④　報告書構成案について

６　伏木富山港（伏木地区）大型客船夜間出港に係る航行安全調査

委員会の構成　（順不同・敬称略）

「委　員」

（委員長）日當　博喜　海上保安大学校　名誉教授
遠藤　　真　富山高等専門学校　教授
久古　弘幸　一般社団法人日本船長協会　副会長
神田　修二　伏木水先区水先人会　会長
矢後　則男　　〃　　副会長
篠原　忠臣　飯野港運株式会社　専務取締役
針山　健二　伏木海陸運送株式会社　代表取締役社長
矢富　邦昌　北陸海事株式会社　代表取締役社長

「関係官公庁」

第九管区海上保安本部　交通部
伏木海上保安部
北陸地方整備局　伏木富山港湾事務所
富山地方気象台

6-1　ビジュアル操船実験

(1)　開 催 日：平成 28 年３月 10 日（木）
(2)　場　　所：東京都　株式会社ＭＯＬマリンシミュレータ室

6-2　作業部会

(1)　開 催 日：平成 28 年４月４日（月）
(2)　場　　所：富山市　ＡＮＡクラウンプラザホテル富山
(3)　議　　題：
　①　調査・検討の概要について
　②　ビジュアル操船実験結果について
　③　航行安全対策案について

6-3　委員会

(1)　開 催 日：平成 28 年４月 14 日(木)

(2)　場　　所：富山市　ＡＮＡクラウンプラザホテル富山

(3)　議　　題：

①　調査・検討の概要について

②　夜間出港の安全性について

③　航行安全対策について

④　報告書案について

7　新潟港（東港区）大型客船入出港に係る航行安全調査

調査会の構成　（順不同・敬称略）

「委　員」

（委員長）南　　清和　　東京海洋大学　教授

久古　弘幸　　一般社団法人日本船長協会　副会長

小坂　徳夫　　新潟水先区水先人会　副会長

信田　拓志　　新潟港船舶代理店会　事務局

（株式会社リンコーコーポレーション東港支社　船舶業務部長）

伊藤　則彦　　日本海曳船株式会社　常務取締役

「関係官公庁」

第九管区海上保安本部　交通部

新潟海上保安部

北陸地方整備局　新潟港湾・空港整備事務所

新潟地方気象台

第１回調査会

(1)　開 催 日：平成 28 年３月 29 日（火）

(2)　場　　所：新潟市　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟

(3)　議　　題：

①　大型クルーズ客船の入港計画について

②　調査・検討の計画について

③　新潟港の現況について

④　航行環境について

⑤　操船に係る基礎検討について

⑥　操船の安全性の検討について

８　日本海北部海域における小型船舶の安全対策に関する調査研究（秋田県・山形県地区）

委員会の構成　（順不同・敬称略）

「委　員」

（委員長）日當　博喜　　海上保安大学校　名誉教授
越當　雄二　　日本小型船舶検査機構　仙台支部長
三浦　　完　　日本小型船舶検査機構　青森支部長
佐伯　　優　　秋田船川水先区水先人会　会長
松浦　安洋　　酒田水先区水先人会　会長
藤田　博英　　秋田県漁業協同組合　代表理事組合長
五十嵐安哉　　山形県漁業協同組合　代表理事組合長
齋藤　修市　　秋田県小型船舶安全協会　会長
齋藤　賢作　　山形県小型船舶安全協会　会長
宮崎　一雄　　株式会社マリーナ秋田　代表取締役専務
佐藤　廣之　　鼠ヶ関マリーナ　ハーバーマスター
高桑　幸蔵　　ビーエルエス東北　代表

「関係官公庁」

第二管区海上保安本部　交通部
秋田海上保安部
酒田海上保安部
東北運輸局　秋田運輸支局
東北運輸局　山形運輸支局（酒田庁舎）
水産庁　新潟漁業調整事務所
秋田地方気象台
山形地方気象台
秋田県　農林水産部　水産漁港課
山形県　庄内総合支庁　産業経済部　水産振興課

第２回委員会

(1)　開 催 日：平成 28 年２月 25 日（木）
(2)　場　　所：酒田市　ホテルリッチ＆ガーデン酒田
(3)　議　　題：
　①　アンケート調査の結果について
　②　平成 27 年における海難防止活動の状況について
　③　小型船舶の海難防止対策について
　④　調査・研究の成果について

Ⅱ　会 務 報 告

Ⅱ－１　会議の開催

平成 27 年度第３回理事会

１　開 催 日　平成 28 年３月 17 日(木)

２　場　　所　新潟市中央区万代５丁目 11 番 20 号
　　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟

３　理事の現在数、出席者数

(1)　理事の現在数　　23 名

(2)　出席者数
　イ　出席理事　　14 名
　ロ　監　　事　　２名

４　議事次第
　議　事
　　決議事項
　　第１号議案　平成 28 年度事業計画書について
　　第２号議案　平成 28 年度収支予算書等について
　　第３号議案　特定費用準備資金の保有について

　　報告事項
　　業務を執行する理事の職務の執行の状況について

５　議事の経過及びその結果

(1)　定足数の確認
　　事務局から定款第 38 条に定める定足数を満たしている旨の報告がなされた。

(2)　議長及び議事録の署名
　　定款第 37 条の規定に基づき南波会長が議長となり、議事録の署名は定款第 42 条の規定に基づき、南波会長(代表理事)、髙橋監事、水野監事とした。

(3)　議案の審議状況及び決議結果等

　　第１号議案
　　議長の求めに応じ、事務局から平成 28 年度事業計画書案について説明した。
　　第１号議案の決議を求め、平成 28 年度事業計画書は出席理事全員異議なく原案の

とおり決した。

第２号議案

議長の求めに応じ、事務局から平成 28 年度収支予算書案について説明した。第２号議案の決議を求め、平成 28 年度収支予算書等は出席理事全員異議なく原案のとおり決した。

平成 28 年度事業計画書及び平成 28 年度収支予算書等については、総会に報告することとした。

第３号議案

議長の求めに応じ、事務局から特定費用準備資金の保有について説明した。第３号議案の決議を求め、簡易型ＡＩＳ普及促進事業のために積立てる特定費用準備資金の保有については、出席理事全員異議なく原案のとおり決した。

報告事項

業務を執行する理事の職務の執行の状況について事務局から報告した。

Ⅱ－２　業務日誌抄

月　　日	内　　容
１月 14 日(木)	新潟ＬＮＧバースにおける新型式ＬＮＧ運搬船の航行安全調査 第２回委員会　(新潟市)
１月 19 日(火)	金沢港大型客船入出港に係る航行安全調査　作業部会　(金沢市)
１月 20 日(水)	敦賀港大型客船入出港に係る航行安全調査　第２回作業部会　(福井市)
１月 25 日(月)	岩船沖洋上風力発電事業に係る航行安全調査　第１回委員会　(新潟市)
２月　４日(木)	金沢港大型客船入出港に係る航行安全調査　第２回委員会　(金沢市)
２月　９日(火)	舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査　作業部会　(舞鶴市)
２月 15 日(月)	舞鶴港大型客船入出港に係る航行安全調査　第３回委員会　(舞鶴市)
２月 19 日(金)	敦賀港大型客船入出港に係る航行安全調査　第３回委員会　(福井市)
２月 22 日(月)～23 日(火)	岩船沖洋上風力発電事業に係る航行安全調査　ビジュアル操船実験 (東京都)
２月 25 日(木)	日本海北部海域における小型船舶の安全対策に関する調査研究(秋田県・山形県地区)　第２回委員会　(酒田市)
３月 10 日(木)	伏木富山港(伏木地区)大型客船夜間出港に係る航行安全調査 ビジュアル操船実験　(東京都)
３月 17 日(木)	平成 27 年度第３回理事会　(新潟市)
３月 29 日(火)	新潟港(東港区)大型客船入出港に係る航行安全調査　第１回調査会 (新潟市)
４月　４日(月)	伏木富山港(伏木地区)大型客船夜間出港に係る航行安全調査　作業部会 (富山市)
４月 14 日(木)	伏木富山港(伏木地区)大型客船夜間出港に係る航行安全調査　委員会 (富山市)
４月 20 日(水)	平成 27 年度の事業報告及び決算の書類等の監査　(協会事務室)

Ⅱ－３　業務予定

(1)	平成 28 年度第１回理事会	５月 10 日
(2)	岩船沖洋上風力発電事業に係る航行安全調査 作業部会	５月 24 日
(3)	平成 28 年度事業推進連絡会議	５月 25 日
(4)	平成 28 年度通常総会	５月 30 日
(5)	新潟港(東港区)大型客船入出港に係る航行安全調査 作業部会	６月　３日
(6)	平成 28 年度日本海中部地方海難防止強調運動推進連絡会議	６月 13 日
(7)	平成 28 年度海難防止強調運動日本海西部地方推進連絡会議	６月 20 日
(8)	日本海北部海域における小型船舶の安全対策に関する調査研究（青森県地区）第１回委員会	６月 29 日
(9)	会報第 118 号発行	９月　上旬

Ⅲ　寄 稿 欄

饒速日尊という神様

元舞鶴事務所長　　山本　勝眞

舞鶴市内には、大小 200 社以上ともいわれる数多くの神社があり、これまで「舞鶴の神様達」のシリーズでそれらの神社を紹介しているところですが、今回は少し趣向を変えて、表題の名前の偉大な神様についてのお話をしてみたいと思います。

実は、この会報の私のコーナーの初めのころ（平成 20 年から 21 年頃）でも何度か紹介させていただいている神様ですが、今回はこの神様に光を当て、ちょっと詳しく見てみようということにしました。

この神様は、「天照国照彦天火明櫛御玉饒速日尊（あまてらすくにてらすひこあめのほあかりくしみかたまにぎはやひのみこと）」という諡号（しごう）（「おくりな」とも読みます）をおもちの大変偉大な（この表現が適切かどうかは分かりませんが・・・）神様です。

おそらく諡号（しごう）としてこれほど長いものは、日本にはほかにないのではないでしょうか。

出雲の大王素盞之男尊（すさのおのみこと）と稲田毘売尊（いなだひめのみこと）との間にお生まれになりました。

饒速日尊（にぎはやひのみこと）は別称として、「大物主櫛甕玉尊（おおものぬしくしみかたまのみこと）」、「布留御魂大神（ふるのみたまのおおかみ）」、「賀茂別雷大神（かもわけいかずちのおおかみ）」、「日本大国魂大神（やまとおおくにたまのおおかみ）」、「解之男事尊（ことさかおのみこと）」、「大歳御祖大神（おおとしみおやのおおかみ）」などの名前があり、古事記・日本書紀（最古の歴史書（？）で「記・紀」とも呼ばれています）編纂以前の神社には、こういった名称で祀られておられます。もちろん記・紀以後に創建された神社であっても、こういった名称の神様であれば、それは饒速日尊を祀ったものです。

代表的な神社名をあげますと、「大神（おおみわ）」「熊野」「賀茂」「日吉」「大国魂」「金

比羅」「大歳」「山王」などですね。

私は、数年前、念願の奈良の桜井市から天理市にかけてつながる「山の辺の道」へ行き、「大神神社(おおみわ)」、「石上神社(いそのかみ)」、「大和神社(おおやまと)」をめぐってきましたが、これらの神社は、大和三神と呼ばれ、大変古く（記・紀以前）て由緒ある神社で、いずれも饒速日尊をお祀りしております。

もっとも、ご祭神が「饒速日尊」となっているのではなく、それぞれ別称が使われています。

また、饒速日尊のご親族が合祀されているものもあります。

石上神宮（天理市）

たとえば、天理市に鎮座される石上神社では、布留御魂大神(ふるのみたまおおかみ)とともに布都御魂(ふつのみたま)（祖父神）、布都斯御魂(ふつしのみたま)（父神）、宇摩志麻治尊(うましまちのみこと)（御長男）などが合祀されているといった具合にです。

ちなみに石上神宮には、いずれも饒速日尊ゆかりの「十種の神宝(とぐさかんだから)」、素盞之男尊(すさのおのみこと)（父神様）が八俣遠呂智(やまたのおろち)（大蛇ではありませんよ）を切った「布都御魂(ふつみたま)の剣」が、国宝として保存されているということです。

熊野や金比羅という神社は全国に無数にあり、皆様のお近くにもきっとあるのではないかと思うのですが、もっとも有名なのは、和歌山県の熊野本宮大社や香川県の金比羅大社ですね。

熊野本宮大社には家都御子(けちみこ)大神、金比羅大社には大物主大神という別称で饒速日尊が祀られています。

古代史研究家原田常治氏は、「熊野」という名称のいわれは、饒速日尊がお生まれになった島根県出雲地方の熊野山が元となっているのではないか、と述べておられます。この熊野山は磐座(いわくら)形式の神社で、奈良県桜井市の大神神社も神殿はなく、後方の三輪山そのものを神殿とする磐座(いわくら)形式になっていますが、この三輪山も別名を三室山といって、やはり出雲の三室山が元になっていると

述べておられます。

大王（おおきみ）として、神武天皇以前に大和地方をおさめておられた饒速日尊は、尊敬する父神様である素盞之男尊が住んでおられた出雲地方の名称を、そのまま奈良に持ってこられたのではないかというわけです。

では、なぜ古い神社においてこうも尊重されている饒速日尊が、記・紀には重要人物（神）として登場されないのでしょうか。このことが不思議でなりません。

その理由は、この神様が出雲系の神様で、しかも神武天皇東遷以前の方なので、記・紀の編纂上は、都合よくない方だったからではないかということなのです。

記・紀が編纂された８世紀初め（古事記 712 年、日本書紀 720 年）、時の政権にとって、肇国の始祖と称すべき神武天皇（即位されたのが推定 240 年ごろか？）の偉業を讃えるためには、それ以前に偉大な人物（神様）がいてはならなかったのでしょう。

大神神社の三輪山（桜井市）

伊波礼彦尊（いわれひこのみこと）（初代神武天皇として即位）が、日向地方から徐々に東遷の道をたどられていたころ、饒速日尊はすでに崩御されていましたが、当時の近畿地方には、伊波礼彦尊（いわれひこのみこと）が初代天皇「神武」として奈良で即位されることを、「よし」としない一大勢力が存在しておりました。その代表格は、長髄彦（ながすねひこ）という豪族であります。

長髄彦の妹の三炊屋毘売（みかしきやひめ）が、饒速日尊のお嫁さんだったし、妹婿の饒速日尊が支配した奈良地方を、簡単に手渡す気にはなれなかったのでしょう。

一方、伊波礼彦尊が大和の支配者に変わろうとすることを、歓迎する勢力もありました。

それは、御長男の宇摩志麻治尊（うましまちのみこと）です。この宇摩志麻治尊が、対抗勢力である母の兄、長髄彦を排除したことにより伊波礼彦尊東遷はなったのです。

大和側の宇摩志麻治尊と、日向側で伊波礼彦尊東遷に尽力した武角身尊（たけつのみのみこと）、それに伊波礼彦尊は、血脈のある（複雑な関係なのでこう表現しました）従兄弟の関係にあります。

そういった中で伊波礼彦尊の東遷という一代事業は、行われていったわけであります。

ちなみに武角身尊は、記・紀では八咫烏（やたがらす）（サッカー日本代表チームのシンボルの三本脚の烏）として登場されている神様です。

饒速日尊は、記・紀の中でもちょっとだけ登場されてはいますが、伊波礼彦尊に帰順した人物（神）として登場させられておられます。

大和神社の看板（天理市）

このように「天照国照彦天火明櫛御玉饒速日尊」は、記・紀のなかでは、その歴史から完全と言っていいくらい、地位も功績も抹殺されているわけですが、皇祖肇国以前、大和地方に燦然と輝く支配者であったのです。

もっとも 697 年編纂の「日本記」には、「天の磐船にのって葦原中津国（あしはらなかつくに）（地上のこと）に降臨云々。」という記述があるそうですが・・・。

現在三重県の伊勢神宮に鎮座の祭神も、「天照皇大神」と「天照」の称号が付されていますが、これはずーっと後の時代にそう呼ばれるようになったわけで、この神様の諡号は「撞賢木厳御魂天疎向津毘売尊（つきさかきいつのみたまあまさかるむかつひめのみこと）」と申され「天照」という号は付いていないとうことであります。

この稿の最後に、古事記・日本書紀のなかで、饒速日尊が登場するくだりを紹介しておきます。

古事記の記述

＜原文＞

故爾、**邇藝速日命**參赴、白於天神御子「聞天神御子天降坐、故追參降來。」卽獻天津瑞以仕奉也。故、邇藝速日命、娶登美毘古之妹・登美夜毘賣生子、宇摩志麻遲命。此者物部連、穗積臣、婇臣祖也。

＜現代語訳＞

『ここにニギハヤヒノミコトが参じて赴き、「天津(あまつ)神の御子が天下りされたとお聞きしたので私も後を追って下ってまいりました。」といって、天津宝（同じ天神の子である証拠の宝）を献上して仕えた。そこでこのニギハヤヒノミコトがトビヒコの妹トミヤヒメを妻とし、生まれた子はウマシマチノミコトである。』

日本書紀の記述

＜原文＞

饒速日命、本知天神慇懃唯天孫是與、且見夫長髓彥稟性愎佷、不可教以天人之際、乃殺之、帥其衆而歸順焉。天皇、素聞饒速日命是自天降者而今果立忠效、則褒而寵之。此物部氏之遠祖也。

＜現代語訳＞

『ニギハヤヒノミコトは天津神が最も大事にされているのは天孫のみであることを知っていたし、ナガスネヒコは性質が頑冥で「天と人」ということを教えても理解しないので、ナガスネヒコを殺害してその軍隊とともに帰順した。天皇は、ニギハヤヒノミコトはさきに天降(あまくだ)ったものだと知っていたが、忠誠を示したのでこれを褒めたたえて手厚くもてなした。これ（ニギハヤヒ）は物部氏の遠い祖先である。』

＜おことわり＞

私の神武天皇即位以前の知識は、古代史研究家原田常治氏が、長年の調査による研究成果として発表された「記・紀以前の資料による古代日本正史」の論文内容が基本

となっています。

氏は、推定240年ごろといわれる神武天皇即位年から、470年以上もたって編纂された歴史書としての古事記・日本書紀の記述内容（とくに神代の部分）に、疑問を持たれ、記・紀編纂以前から存在した全国の著名な神社をしらみつぶしに調査されました。

とりわけ、その偉業を抹消された（？）素盞之男尊をはじめとする出雲系の方々の掘り起こしに力を注がれて、論文を構成されています。

私は、島根の出身で、若いころ石見地方に伝わる伝統芸能「石見神楽（いわみかぐら）」を見聞きして成長しました。石見神楽の演目は、まさに神話の世界を具現化（もちろん演芸ですから主人公を美化した脚色にはなっていますが・・・）した内容のものですが、出雲の神々の偉業を称賛する物語が中心です。そういったことから、氏の論文内容に心髄しているわけです。

古代史の研究は、諸説相乱れて様々な説が発表されていますが、氏の説は一方で大変魅力があると言わざるを得ないのです。（とくに私にとって）

Ⅳ　連 絡 事 項

☆ 会員名簿の変更

現在発行している会員名簿の変更です。（平成 28 年 4 月 20 日届出分まで）

○　指定代表者等の変更

頁	会　社・団　体　名	指定代表者職氏名	担当者職氏名
1	北日本石油㈱	青森販売支店長 斉　藤　昭　人	秋田営業所所長 上　村　　智
2	秋田製錬㈱	代表取締役社長 岡　部　忠　久	生産管理部部長 堀　本　貴　裕
〃	長田建設㈱	取締役社長 長　田　陽　一	常務取締役 阿　部　敏　正
3	酒田海陸運送㈱	代表取締役社長 平　岡　清　康	営業部長 佐　藤　健　一
〃	酒田石油基地協議会	会長（東西オイルターミナル㈱酒田油槽所所長） 川　口　良　助	柿　崎　誠　輝
4	旭カーボン㈱	代表取締役社長 大　橋　牧　夫	営業部生産物流課長 松　田　　敬
〃	㈱植木組	新潟支店長 植　木　　豊	柏崎支店 港湾工事事務所所長 小　林　裕　孝
〃	ＥＮＥＯＳグローブガスターミナル㈱	取締役常務執行役員新潟ガスターミナル所長 片　瀬　昌　孝	五十嵐　紀　子
5	㈱クラレ	新潟事業所長 石　浦　一　成	新潟事業所総務部長 桃　谷　雄　志
〃	五洋建設㈱	北陸支店長 細　貝　隆　司	北陸支店安全品質環境部長 山　下　徹　浩
〃	新光港運㈱	代表取締役社長 吉　川　英　夫	総務部長 小　川　寛　樹
6	東北電力㈱	東新潟火力発電所副所長 木　村　邦　彦	東新潟火力発電所総務課長 石　塚　　智
〃	東洋建設㈱	新潟営業所長 山　田　浩　一	
7	新潟水先区水先人会	水先人 小　坂　徳　夫	
〃	姫川海陸運輸㈱	代表取締役 木　島　吉　三	経理業務部長 木　島　善　吉
8	力屋観光汽船㈱	代表取締役 木　村　英太郎	海務課長 木　村　浩　久

頁	会　社・団　体　名	指定代表者職氏名	担当者職氏名
8	㈱リンコーコーポレーション	代表取締役社長 南　波　秀　憲	運輸本部船舶業務部長 菅　原　裕　之
〃	若築建設㈱	北陸支店支店長 工　藤　　悟	北陸支店土木部長 藤　本　義　則
9	㈱商船三井	専務執行役員 根　本　正　昭	海上安全部長 遠　藤　　充
〃	㈱ゼニライトブイ	東京営業所所長 村　上　善　治	東京営業所係長 関　　隆　臣
〃	デンカ㈱	専務執行役員青海工場長 狩　野　利　春	青海工場総務部長 浦　　守
10	高岡水曜会	東亜合成㈱高岡工場執行役員工場長 澤　田　和　章	東亜合成㈱高岡工場管理部事務グループ課長代理 中　沢　　優
〃	富山新港港湾振興会	会長(射水市長) 夏　野　元　志	主任 塚　本　一　太
〃	伏木港海運振興会	会長(高岡市長) 髙　橋　正　樹	みなと振興課長 向　田　良　雄
11	金沢港北地区特別防災区域協議会	会長(全農エネルギー㈱金沢石油基地所長) 宮　下　　均	共同防災センター所長 西　　勝　広
〃	㈱近藤造船所	代表取締役 近　藤　信　弘	
12	高浜町水産振興会	会 長 板　倉　健　治	正　津　忠　明 山　根　敏　明
〃	敦賀水産振興会	会 長 森　　修	敦賀市漁業協同組合参事 刀　根　尚　之
13	福井港石油基地管理委員会	代表幹事(東西オイルターミナル㈱福井油槽所所長) 出　蔵　慎　一	
14	大山砕石㈱	代表取締役 西　村　　彰	船団長 廣　瀬　範　明
〃	丹後海陸交通㈱	代表取締役社長 小　倉　信　彦	観光事業部次長 小　室　誠　治
15	浜坂漁業協同組合	代表理事組合長 川　越　一　男	参 事 宮　階　弘　志
〃	鳥取県漁業協同組合	代表理事組合長 景　山　一　夫	参 事 前　嶋　　宏
16	日本興運㈱	鳥取支店支店長 長　野　達　夫	沖　田　政　文
〃	やまこう建設㈱	代表取締役社長 岸　本　行　正	取締役総務部長 平　井　　潔
17	中国電力㈱	取締役社長 清　水　希　茂	電源事業本部 燃料計画グループ副長 小　畠　久　典

○　代表者等の変更

頁	会　社・団　体　名	代表者職氏名	担当者職氏名
19	東西オイルターミナル㈱青森油槽所	所　長 中　村　孝　二	
〃	東北電力㈱新潟火力発電所	所　長 髙　橋　正　信	運営企画課長 畠　中　壮　志
20	ＥＮＥＯＳグローブガスターミナル㈱ 七尾ガスターミナル	所　長 畑　　武　義	所長代理 西　川　正　明
〃	東洋建設㈱北陸支店	支店長 伊　藤　史　朗	工事部長 中　村　　武
〃	北陸電力㈱七尾大田火力発電所	所　長 伊　藤　貴　夫	業務課副課長 東　　雅　己
〃	東洋建設㈱福井営業所	副支店長兼営業所長 大　谷　喜　孝	
〃	北陸電力㈱福井火力発電所	所　長 浅　田　孝　典	業務課長 谷　先　政　人

○　住所等の変更

頁	会 社 ・ 団 体 名	住　　所
10	高岡水曜会	〒933-0195 富山県高岡市伏木２丁目１番３号 東亜合成㈱高岡工場内
13	福井港石油基地管理委員会	〒913-0038 福井県坂井市三国町新保 96 字三里浜１－５ 東西オイルターミナル㈱福井油槽所内
20	東北電力㈱新潟火力発電所	〒950-8744 新潟市東区桃山町２丁目 200 番地

○　電話及びＦＡＸ番号の変更

頁	会　社・団　体　名	電　　話	ＦＡＸ
10	高岡水曜会	0766-44-7401	0766-44-7410
〃	伏木港海運振興会	0766-44-0484	0766-44-0048
〃	伏木地区共同防災協議会	0766-44-0931	0766-44-0009
〃	北陸海事㈱	0766-86-1511	0766-45-1198
12	敦賀セメント運輸㈱	0770-22-0807	0770-25-3701
13	福井港石油基地管理委員会	0776-81-3878	0776-82-4810